

●元気な息子にありがとう

タンスの中で吊り下がつて  
いる二着のスーツ。

なく、一年半が過ぎました。

日、内定取り消しの知らせを受けた息子は、どれほどの悲しみ、辛さを味わったことでしょう。



●娘にありがとう

渋谷区/Y・T

先日仕事のセミナーに参加してYさんやお仲間の方々と会場の近くのホテルでお茶をして帰りました。Yさんは前々から珍しい紅茶を買ってきてほしいと頼まれていたのでそれを渡して帰路につきました。電車のなかで耳をさわるとお気に入りの大切なパールのピアスがありません。ホテルに電話して近所や通った道、家の中も探しました。みつかりません・・・。なかばそのことも忘れてあきらめていたある日、Yさんからメールがきました。「今お客様がみえたので頂いた紅茶を飲もうとしたら袋の中からピアスが出てきたけどTさんのじやない?」Yさんありがとうございます。おかげさまで今日一日とてもいいになりました。

それだけでも「ありがとうございました」という気持ちが持てるようになりました。  
二着のスーツを、息子はどんな気持ちで見ていたのでしょうか？  
そしてスーツたちも、息子を見守つてくれているように思つていい私です。

早く正社員として就職をしてほしいと  
望む私たち夫婦との葛藤もありました。  
そして、私たち夫婦は、何も言わずに  
息子を見守るようになりました。  
今、息子は毎日アルバイトに通つてい  
ます。家に引きこもることも、暴力を振  
るうこともなく、元気で日々を送つてく  
している。

日に内定取り消しの知らせを受けた息子は、どれほどの悲しみ、辛さを味わつたことでしょう。

は往復2時間かけて会社に合い鍵を取りに行く事にしようと思いました。そうなれば確実に契約は遅れてしまいます。時間をかけやつとの思いで信用を得たお客様だけにこんなミスは悔しくてなりません。そこに中学2年になる娘が起きました。妻が私の今の状況を説明しています。私は背広を着て玄関に行き出かけようとしましたその時です。

「おとうさんあつたよーこれじやない？」娘の手には車の鍵。「お父さんは鍵とお財布は絶対なくしたことはないから絶対あるとおもつたよ。奥の床に落ちていたよ」おおお、なんてすばらしい娘なのだ。普段は生意気盛りの反抗期の娘に救われました。

先日私は都内の会社で契約書と登記書類を整え、明日の不動産の契約の準備をし、顧客送迎用の車で郊外の自宅に帰宅しました。

車にはセキュリティーアイテムが付いているので書類は車のトランクに移して家に入り寝ました。

翌朝念のため書類を確認しようと車の鍵を探しますが置いたはずの場所に見あたりません。

妻にも手伝つてもらい探すのですがどうしてもみつからないのです。契約は午前中だし。トランクの鍵は開けられないし、早朝で業者も呼べず。私

Iくん包丁をもらってくれて  
ありがとう

（さいたま市／T・O）



年は親子程離れているものの彼を通して私は昔の自分を見ているような気がしてなりませんでした。家業を継いで板前だった私。

修行先の親方から頂いた柳刃包丁。親との確執があつた私は家業をやめ今ではなく別の人生を歩んで居ます。年とともに両親との確執も解け普通の関係になつたものの、押し入れにしまわれた親方から頂いた柳刃を見る度、私の心は苦しくなつたものです。

I君は私を慕つてくれて毎日私に相談に来ました。友人のテレビ局のディレクターを紹介し、彼の前で芸を演じて意見を聞いたり。板前時代の話を聞かせてあげたり。

人生の先輩として生き方や経験談を話

実は I 君はお父さんと折り合いが悪く、コメディアンを目指して上京したのです。芸の道を極めたいというものの奥さんと子供を養わなければならず、夜中にお当屋さんでアルバイトをしながらオーディションを受ける日々。・・・。

●おばあちゃんにありがとう

I君…「Tさんのおかけで気づかせていただきました。ありがとうございます。今新しい職場に向かつているところなのです。ですが、お礼が言いたくて電話しました。」  
T..「日本料理なら包丁が必要だね。僕の包丁をもらつてくれない?」



「お父さんは鍵とお財布は絶対なくした  
ことないから絶対あるとおもつたよ。奥  
の床に落ちていたよ」  
「おお、なんてすばらしい娘なのだ。  
普段は生意気盛りの反抗期の娘に救わ  
れました。

I君は私を慕つてくれて毎日私に相談に来ました。友人のテレビ局のディレクターを紹介し、彼の前で芸を演じて意見を聞いたり。板前時代の話を聞かせてあげたり。

年は親子程離れているものの彼を通して私は昔の自分を見ているような気がしてなりませんでした。家業を継いで板前だつた私。修行先の親方から頂いた柳刃包丁。親との確執があつた私は家業をやめ今では全く別的人生を歩んで居ます。年とともに両親との確執も解け普通の関係になつたものの、押し入れにしまった親方から頂いた柳刃を見る度、私の心は苦しくなつたものです。

実は I 君はお父さんと折り合いが悪く、コメディアンを目指して上京したのです。芸の道を極めたいというものの奥さんと子供を養わなければならず、夜中にお当屋さんでアルバイトをしながらオーディションを受ける日々。・・・。

が満期を迎えたこと、そして、保険契約期間中に保険金の請求が無かつたため健 康祝い金としていくらかが支払われるこ とが書いてありました。私は、その保険の存在自体を知りません でした。祖母が、わたしの為に掛けっていてくれたのです。

私はそれを聞き、私の身を案じてくれていた祖母に感謝しました。健康祝い金については、保険金を支払つた祖母が受け取るべきだと言つたら、「あなたが健康でいたからこそその健康祝い金なんだから。あなたがもらひなさい」といくつになりました。おばあちゃん、私の健康を気遣つてく れてあります。どうぞよろしくお願いします。

(横浜市／M・K)

私は、今年で87歳になる祖母が、ま  
す、私たちの家の隣で一人で暮らして  
います。先日、郵便局から一通のはがきが届き  
ました。その内容は、私に掛けてお預け金を返  
します。

一人間ね最初から結果出せる人はいないよ。謙虚に一生懸命がんばりなさい。目の上の人には好かれるように努力しなさい。「と数時間に渡り、お説教をしてくださいました。

その後も仕事でミスをしたり悩むと私の足は営業の途中でそのおばあさんとのころへ向いていました。

それから数年経ちました。おばあさんに勇気を頼いたおかげで私は係長に昇進することができました。今年結婚もしました。

数年前の事です。証券会社に入社した新人の私は上司に飛び込みの営業を命じられました。元々人見知りの激しい私には飛び込みで営業するという事は苦痛以外の何者でもありませんでした。その日も何件もインター ホンを鳴らしても門前払いが続き……。いいかげんボタンを押す事に恐怖心さえ覚えてしまつて、いた私は、恐る恐るクリーム色のお宅のインター ホンを押しました。

「はい? どなた様ですか?」中から出でられたのはおばあさんでした。私は又断られるのかなと思いつながらもサービスの説明をしました。おばあさんはニコニコしながら

「あなた新入さんだね? 疲れた、だろ中には、いって冷たいものでも飲みなさい」と私の家の中に招きいれてくださいました。



●バスで助けて下さった女性

た。  
おばあさん、私をはげましてください  
てありがとうございます。  
(新宿区) M・M

番組に感動を覚え、そのことを父にたずねると父は照れくさそうに



久しぶりにバスを乗るとバスモが利用できたので、ずいぶん便利になつたものだと感心した。と同時に、数年前のことが思い出された。

外出先からの帰宅で、バスに乗つたときのこと。料金を払おうと財布を見たら、五千円札一枚があるだけ。運転手さんもあいにく両替が切れてしまつたという。



番組に感動を覚え、そのことを父は照れくさそうに「おれはスターさんにはやまないといけないことがあるのさ」と思い出を聞かせてくれました。



「あの球なら絶対打てるな」と父は感じたそうです。打順が父に回りウェイティングサークルで最後まで「打つべきか否や」と悩んでいたそうです。その時スタルヒンさんは300勝をかけてマウンドに立っていました。一方父は新人王をかけて打席にたつていました。スタルヒンさんが振りかぶって投げた球・・・・。気がつくと父の打球はセンターを越えてヒットになっていたそうです。ベースの上でベンチを覗うと先輩たちの目は点になって静まり返っていたそう

【原稿をお待ちしています。】

A close-up photograph showing two cicadas on a large green leaf. One cicada is positioned above the other, with its wings partially spread. The cicadas have brown, textured wings and reddish-brown heads. The background consists of more green leaves.

【携帯 De ショット】  
「梅雨が明けたよ~」とばかりに、公園ではセミが一斉に鳴き出した。樹の根の周りには2cmほどの穴があり、幼虫が深夜に土中より這い出してきたようだ。幹をよじ登り、枝先の葉にしつかりと爪を立て重なる抜け殻は、幻想的なドラマの名残なのだろう…。



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
- パソコンの方は下記のURLから ↓  
<http://1039.seesaa.net/>
- メールでのご投稿は…  
[info@holonics.gr.jp](mailto:info@holonics.gr.jp)

【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部